◤追 悼 文◢

# 倒産企業の会計操作

**山本達司**(実証会計学ワークショップ代表)
**浅野信博・榎本正博・石川博行・木村史彦・太田浩司**
**音川和久・乙政正太・首藤昭信・髙田知実**

本稿に続く論文５篇の著者全員は、須田一幸先生が主催されていた実証会計学ワークショップ（Positive Accounting Theory Workshop：PATW）のメンバーである。約10年前に須田先生の発案で、研究会メンバーが５つのチームを組んで、倒産企業の会計操作に注目した研究プロジェクトを実施することになった。琵琶湖湖畔での合宿、高松での合宿などを経て、私たちは日本会計研究学会第62回大会（2003年９月11日および12日、大会委員長:故興津裕康先生)において、「企業倒産と会計」と題する特別セッションで、次の５つの研究報告を行った。

須田一幸・乙政正太・浅野信博「倒産企業の会計操作―会計手続き選択の分析―」
浅野信博・首藤昭信「倒産企業の会計操作―裁量的発生高の分析―」
太田浩司・須田一幸「倒産企業の会計操作―経営者による利益予想の分析―」
山本達司・木村史彦・辻川尚起「倒産企業の会計操作―会計操作と資金調達との関係―」
榎本正博・石川博行・音川和久「倒産企業の会計操作―証券市場に与えた影響―」

その後、私たちは日本会計研究学会での研究報告をまとめ、以下の論文６篇を雑誌『會計』に連載した。

須田一幸・乙政正太・浅野信博，2004.「倒産企業の会計操作（一）―会計手続き選択の分析―」『會計』第165巻第４号，74-87.
浅野信博・首藤昭信，2004.「倒産企業の会計操作（二）―裁量的発生高の分析―」『會計』第165巻第５号，123-138.
須田一幸・太田浩司，2004.「倒産企業の会計操作（三）―経営者による利益予想の分析―」『會計』第165巻第６号，111-125.
木村史彦・山本達司・辻川尚起，2004.「倒産企業の会計操作（四）―会計操作と資金調達との関係―」『會計』第166巻第１号，112-126.
榎本正博・石川博行・音川和久，2004.「倒産企業の会計操作（五）―証券市場に与えた影響―」『會計』第166巻第２号，116-130.
須田一幸・榎本正博・石川博行・音川和久，2004.「倒産企業の会計操作（六・完）―証券市場に与えた影響―」『會計』第166巻第３号，129-139.

その後も須田先生はこのテーマについて研究の継続を望まれ、私たちはこれらの論文をさらに発展させて、次の著書を発表した。

須田一幸・山本達司・乙政正太編著,2007.『会計操作―その実態と識別法、株価への影響』，ダイヤモンド社.

この著書では、1980年１月１日から2002年５月31日に倒産した101社をサンプルとして、倒産企業における会計操作の実態とその影響について詳細に分析している。これは、私たちが須田先生と共に行った研究プロジェクトの集大成である。編集作業の最終段階で、研究室から携帯電話で一字一句についてまでメンバー全員に確認されるなど、須田先生の研究に対する妥協なき厳しい態度には、心から敬服する。

その後も、須田先生は精力的に多くの研究論文を発表されてきたが、2011年５月31日、大津市の病院にて亡くなられた。あまりにも早い最期であった。悲しみのあまり、言葉もなかった。今でも研究会の片隅の席に、にこやかに座られているような気さえする。

須田先生が亡くなられた後も、私たちは実証会計学ワークショップを継続している。そして、この『現代ディスクロージャー研究』須田一幸先生追悼記念号においては、須田・山本・乙政編（2007）の内容をさらに発展させて、2000年４月１日から2011年１月31日に倒産した159社をサンプルとして、実証分析を行っている[1)]。

以下に続く論文５篇の著者には、個々の論文の執筆者名が記されているが、これらの論文は、須田先生を含めた私たち全員の研究成果であると、私たち全員が確信している。須田先生と共に過ごした研究の日々は、私たちの中に消えることのない思い出として、永遠に残り続けるだろう。須田先生の御冥福を心からお祈りするとともに、ここに論文５篇を須田一幸先生に捧げたい。

《注》

1）帝国データバンク社『COSMOS倒産ファイルデータベース』により、倒産企業の特定を行った。